

青雲

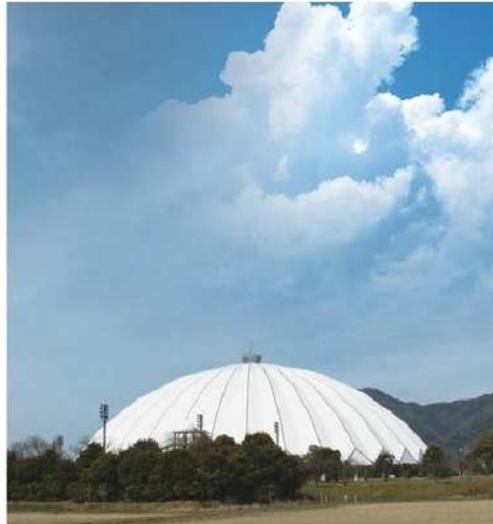
24号 2022.3

発行人／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

元島根県知事 澄田信義 氏



『進化』

出雲ドームは古代最大の木造建築・出雲大社を有する出雲市に、日本の伝統文化である木造建築をいかに現在の大空間構造として蘇えらせるかというコンセプトで設計されたといわれています。木造建築の技術が古代から名もなき職人や技術者の手を通して、脈々と受け継がれ、そして「進化」を続けています。

我々青年部会も先輩から受け継いだ今の最高を、青年らしい行動と自らの力で「進化」させ、それを後輩に繋いでいけるよう、精一杯努力をしてみたいと思います。

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

24 MAR. 2022 VOL.24 CONTENTS

【巻頭言】

1 未来とは、今である

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 森山 竜人

【次世代建設就業者育成事業】

3 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会・意見交換会の概要

4 神門通り線(2工区)防災安全交付金(街路)工事 第4期／

重要文化財旧大社駅保存修理(仮設・解体)工事

5 建設機械搭乗体験

6 意見交換会／斐伊川放水路分流堰

7 テレビ放送・新聞記事掲載

8 工事現場見学会・意見交換会に参加して

12 しまね建設産業イメージアップ女子会

13 アンケート結果

15 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)

経営研究委員会 委員長 柳樂則昭

16 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 委員 嘉藤雅士

【令和3年度事業報告】

17 第22回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 地域貢献委員会 委員 佐藤精一

18 島根県豪雨災害ボランティア活動に参加して 青年部会 副部会長 勝部和則

19 研修会2021 会員交流委員会 副委員長 落合和典

20 卒業にあたり 大福工業(株) 勝部和則

(株)フクダ 務中直也

21 新入会員紹介 中国道路整備(株) 安部希芳

22 編集後記 総務広報委員会

未来とは、今である

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 森山 竜人



令和という新しい時代が始まり、地域経済の更なる活性化に期待しておりましたが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、はや2年の時が経ちます。人々のマスク姿がスタンダードになった今ですが、そんな中開催された東京オリンピックも早足で通り過ぎていきました。

現在はようやくワクチン接種も進み、新規感染者も減少傾向に転じ、人々の動きが徐々に活発化し、社会経済が再び動き始めているところですが、新たな変異ウイルスの出現により感染の再拡大が懸念されているところです。

さて、近年我が国においては、毎年のように豪雨や台風、豪雪、地震等による大きな自然災害が発生しております。ここ出雲地区管内でも昨年7月の豪雨により甚大な被害に見舞われ、昼夜を問わず災害復旧に対応しました。

我々地元建設業は地域住民の生活の向上や地域経済の発展を支える地域インフラの整備や維持の担い手であるとともに地域社会の安心・安全を確保する守り手として重要な役割を担っています。昨年も地元の高校生や中学生に現場見学会等を通して建設業を知ってもらう機会を持つことが出来ました。

今後の将来に渡り、我々建設業がその役割を果たしていくには、この時代の変化に対応した経営基盤の確保、将来における担い手の確保・育成が何よりも大切になりま

す。しかしながら、我々を取り巻く環境は企業間格差の顕在化や拡大化に加え、近年加速する高齢化と若者離れによる建設就労者の減少は依然として厳しい状況です。

そのための将来の担い手の入職促進に向けた「働き方改革」による就労時間の是正や週休2日の確保への対応は重要な課題であると思います。そして、今後より一層進んでいくことが予想されるDX（デジタルトランスフォーメーション）への対応です。コロナ禍の影響と経験により、人々の生活や働き方はリモートやデジタル化の波をより早く進めたと思います。今までの既成概念の打破によりスタンダードになった事柄はいくつもありますし、今後も時代にそぐわないものは刷新されて行かなければならないと思われま

す。将来の建設業に向け、その波に乗り遅れないように、そしてタイトルにもある格言のとおり、未来は今に繋がっていて、今現在を変えることで未来も変わります。今後

も会員一同で、そのイノベーションと働き方に取り組んで行かなければと思います。最後になりますが、我々地域に根付く島根県出雲地区建設業協会青年部会は関係各位と協同し、建設に関わる諸課題に取り組んでいく所存でございますので、引き続き、ご理解ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。



次世代建設就業者育成事業の背景と目的

建設業は、社会資本の建設や補修、維持管理を行い、地域経済の一翼を担うとともに、災害の未然防止や災害時の応急対策・復旧などに努め、市民の命と安全を守ることが使命です。本年度は山陰地方でも7月～8月にかけて梅雨前線等による降雨により多大な被害が発生しました。私たち地域建設業は、その災害復旧の一翼を担い、「地域危機管理産業」としての地域の安全・安心を守るという使命感、責任感を持って活動し、その役割は非常に大きなものであることを再認識しました。

しかしながら、そのやりがいでだけでは人材が集まらないのが現状です。そこで、我々青年部では建設業が取り組んでいる技術革新や働き方改革に対する理解を深めてもらうために実際に肌で感じてもらうことを目的とし、出雲農林高等学校および出雲西高等学校の生徒を対象に現場見学会・意見交換会を実施しました。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 出雲農林高等学校、出雲西高等学校
- 開催日 令和3年10月26日(火)
- 参加者 出雲農林高等学校環境科学科2年生 39名、教員2名
出雲西高等学校 2年生 1名、教員1名

9:15～11:15	<p>●現場見学会</p> <p>○発注者 島根県出雲県土整備事務所 受注者 株式会社 中筋組 工事名 神門通り線(2工区)防災安全交付金(街路)工事 第4期 施工場所 出雲市大社町修理免～杵築南地内 (内容) 出雲県土整備事務所 高本都市整備課長による事業概要説明 (株)中筋組 糸川様による工事概要説明 ・3D測量データを用いた工事説明 ・複合実現システム「サイドビジョン」を使用した工事の進捗確認</p> <p>○発注者 出雲市 受注者 清水建設・中筋組 特別建設共同企業体 工事名 重要文化財日大社駅保存修理(仮設・解体)工事 施工場所 出雲市大社町北荒木地内 (内容) (株)清水建設 中村様による事業概要説明 (株)中筋組 柘植様による工事概要説明</p>
11:40～12:10	<p>●意見交換会</p> <p>実施場所 上塩冶スポーツセンター体育室 (内容) 事前アンケートをもとに質疑応答</p>
12:10～13:00	<p>昼食・休憩</p>
13:00～14:50	<p>●建設機械搭乗体験</p> <p>実施場所 斐伊川放水路残土処理場跡地(上塩冶スポーツセンター横) (内容) ○建設機械搭乗体験 協力会社:株式会社板倉重機 バックホウ 0.7m3級 2台 アーティキュレートダンプ 2台 4tローラー 1台 ○しまね建設産業イメージアップ女子会によるパネル展示・説明 ○(株)トーソクによるドローン飛行実演・建設機器説明</p>
15:00～16:00	<p>●斐伊川放水路分流堰見学</p> <p>(内容) 出雲河川事務所若井様による事業説明及び斐伊川放水路分流堰見学</p>

神門通り線(2工区)防災安全交付金(街路)工事 第4期



出雲県土整備事務所 高本都市整備課長による事業概要説明



(株)中筋組 糸川様による工事概要説明



現場で
集合写真

重要文化財日大社駅保存修理(仮設・解体)工事



(株)清水建設 中村様による事業概要の説明



(株)中筋組 柘植様による工事概要の説明



安全帯の着用

休憩中に
大社を散策



建設機械搭乗体験



ドローンで記念撮影



意見交換会

建設業の魅力高校生へ



建設業の良い点
これからの改善点を話す
森山部会長



仕事のやりがいを伝える
江戸運営専務



真剣に耳を傾ける高校生



アンケート結果発表



全体の様子

斐伊川放水路分流堰



出雲河川事務所 岩井様による事業説明



分流堰の見学

テレビ放送

出雲ケーブルビジョン 令和3年10月28日(木) 放送



TSKさんいん中央テレビ 令和3年10月26日(火) 放送



求む土木女子!若い担い手を確保せよ 高校生が建設工事現場で操縦体験 災害時の活躍にも期待(出雲市)

求む土木女子!若い担い手を確保せよ 高校生が建設工事現場で操縦体験 災害時の活躍にも期待(出雲市)

新聞掲載

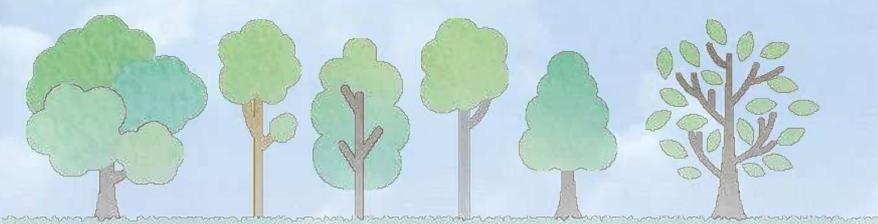
島根日日新聞 令和3年10月29日(金) 掲載



山陰中央新報 令和3年10月28日(木) 掲載



建設興業タイムス 令和3年10月30日(土) 掲載



工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 糸原 ひかり

今回の現場見学会では、様々な工事現場に行きました。

最初に旧大社駅へ行きました。私は大社育ちなので、小学生の頃よく旧大社駅に遊びに行ったり、学校の授業の一環として学習しに行ったりしていたため、とても馴染みのある建物でした。今回は旧大社駅の屋根部を主に見学しましたが、小学生の私は将来このような体験をすることができるなんて思ってもいなかったので、とても嬉しかったです。旧大社駅の屋根は多くの瓦が使用されており、一枚一枚を再利用できるか手作業で確かめていると知り驚きました。職人の方が瓦を叩いた音を確認することで判断しておられ、しかもその作業に1〜2ヶ月もかかったと知りました。終わりが遠い作業を1つずつこなしておられると知りとても感動しました。また、旧大社駅は重要文化財に指定されているので細心の注意を払いながら作業しておられることを知りました。外からは分からなくても細部にこだわっておられるのだなと感じました。

次に神門通りで行われている工事現場に行きました。橋を撤去し造りかえるといった大規模な作業だと感じましたが、この現場では最先端の技術を沢山用いておられることを知り、1つ目に三次元で表すことができる測量器械です。様々な角度から点群データを取得して、三次元に現場をパソコンの画面に表し「鳥居の幅を測りたいときには端と端を選択するとその距離が表示される」と言われ、そんな簡単に分かるのかなと思いましたが、実際に操作を見てみるとすぐに鳥居の幅、高さが出てきて、今の時代はこのような器械があるのかと驚きました。今までわざわざ測定していた作業がとても短縮できると感じました。

午後からは建設機械搭乗体験をさせていただきました。私は将来オペレーターになりたいという夢もあって出雲農林高校に入学したので、とても貴重で良い経験になりました。3つの重機がありましたが、どの重機も現場で見たことがあるもので、その中でも難しく感じたのはバックホウの運転です。4つのハンドル使い分けるのがとても大変でした。2つは前に進んだり、バックしたりするもので残りの2つでアームやバケットを操作したり、機体の方向を変えたりしなければならなかったので大変でした。これを使って土を掘ったりするのは頭を使わないといけないなと感じました。体験が終わった後に「この機械は20代の女性も操作しているのだよ」と言われたので驚きました。とても格好いいと思い、女性の方もたくさんこの建設業に携わっておられると知って嬉しかったです。

最後に斐伊川放水路の見学に行きました。斐伊川放水路は私たちが生活していく上で重要な役割を果たしていることを学びました。斐伊川が氾濫したら天井川のためなかなか水が引かないみたいです。そのため斐伊川を分流させ流量を調整するため放水路が造られたのだと知りました。放水路の役割は出雲市だけではなく、松江市にも影響を与えていることも知りました。放水した場合、松江市の川の水位も変わり、浸水の恐れが大きく軽減されているという結果が出ています。そのことを聞きとても驚きました。また放水ゲートの近くまで行かせていただき、とても大きくて迫力があり、ゲートの構造も教えていただき、とても勉強になりました。

今回、貴重な体験をさせていただき、将来のことを考える良いきっかけになりました。ありがとうございました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 加藤 紳 磨

1年生のころから様々な場所を現場見学に行かせていただきましたが、今回の現場見学は一番楽しく多くのことに興味を持つことができました。

最初に行った重要文化財である旧大社駅保存修理工事の現場では、旧大社駅の歴史の深さや重要文化財の工事の大切さ、指定文化財の駅舎の貴重さなど多くのことが印象に残っています。その中で特に印象が強かったのは、現場の方が「自分たちが工事したものが、これからずっと人々に親しまれるものになってくれたら嬉しい」と言っておられ、すごく心にさざりました。私も自分が造ったものが、長い間人々に親しまれていたらとても嬉しいと思いました。このお話をきいてこのような現場に携わることに興味を持つことができました。

次に神門通り線防災安全交付金工事の現場の見学では、スマートフォンで映した映像に完成した仮想の橋が現れとても驚きました。また鳥居の点群データを見させていただき、画像だと思っていたものが拡大すると点の集合体だと分かり、細部まできれいにデータをとることでこのように表現することができるなんてすごい測量機器だと思いました。

午後からは建設機械の搭乗体験をさせていただきました。どの建設機械も初めて乗り操作し、とても楽しかったです。特にバックホウでは機体を回転させることを体験させてもらい、印象に残っています。どの機械もすごく楽しかったです。どれも難しかったです。この機械を完璧に操縦される現場の方々はとてもすごかったいいなと思いました。

最後に斐伊川放水路分流堰を見学させていただきました。今までは何のためにあるのか正直分かりませんでした。今回お話を聞きとても重要なもので、スケールの大きい工事が行われたと分かりすごく驚きました。放水路があるおかげで町の安全が守られていることを知り、このような仕事もあるんだと分かりました。町を守る仕事もとてもかっこいいと思いました。

今回の現場見学会は、すごく良い経験をさせていただきました。現場見学で建設業の仕事内容を知ることができ、どの内容も面白そうで今後の進路選択に役立つものばかりでした。貴重な体験を楽しく、集中して行うことができ本当に良かったと思いました。また現場見学があったら、今回のように楽しく体験したいと思いました。ありがとうございました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 狩野 翼

今回の現場見学会は、普段では体験することの出来ないことを体験できるとても貴重で勉強になるものでした。旧大社駅の修復工事では、約1万2千枚もの瓦を手作業で外し、それら全てを洗浄するということにとっても驚きました。文化財の修理では、使用できる部材は、再使用することが原則となっているので、とても慎重な作業が求められていると感じました。瓦を外し木部だけになった状態を見るのは初めてだったので、とても貴重な体験になりました。私は高速道路や橋の建設現場といった大きな公共工事の現場を見学することが多く、建物の建設や半解体修理といった現場を見るのがなかったので、とても勉強になりました。

神門通りの橋の撤去工事では、MR技術を用いて計画されている橋が、画面上に映し出されとても驚きました。橋の撤去も細かい施工フローに分かれていると分かりました。撤去にはコンクリートカッターとワイヤーソーが使用されており、実際に使用される機械を知ることができ、勉強になりました。MR技術やレーザースキャナを使用して求めた点群の画像など技術の進歩を実感しました。

斐伊川放水路では放水路の大きさに圧倒されました。起伏ゲート、制水ゲートに近づくと改めて大きさを実感しました。ダムや放水路の整備効果は、今まで実感出来ませんでした。資料を見てみると、どの観測地点でも水位が低下しており、改めて重要な土木構造物だと感じることができました。昔から斐伊川流域は洪水の被害を受けていたため、神戸川を拡幅したり放水路の建設など治水対策を行ったりすることで、私たちは安全に暮らせていることが分かりました。

建設機械の搭乗体験はとても楽しかったです。私は特に4tローラーの操作の難しさに驚きました。かなりスピードが出るのと、車と構造が違い曲がる際などとても操作に苦労しました。バックホウは過去にも操縦したことがあったため、割とスムーズに操縦することが出来ました。アーティキュレートダンプは本やインターネットでしか見たことがなかったので、実際に見ることができ感動しました。操縦もとても簡単で楽しかったです。搭乗体験を行い建設機械の運転免許を取得してみたいなと思いました。

先日行ったインターンシップでも感じましたが、建設現場は大きく変わってきていると改めて感じることができました。安全に気をつけながら作業を行い、しっかりと休みを取れたり、女性の技術者の数が増えたりと多くの変化が起きていると分かりました。今回の見学会を通して土木はスケールが大きく、人々の生活を支えたり守ったりするために、無くてはならない仕事だと感じました。今回の体験を今後の勉強などに活かしていきたいと思いました。今回の見学会はとても楽しく充実した一日でした。ありがとうございました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

出雲西高等学校

普通科2年 吉川聖隼



私は去年に引き続き2回目の現場見学会への参加をしました。去年の自分は建設業ともうひとつの進路で迷っていましたが、しかし前回見学会に参加した後の自分の気持ちは、進路の方向性が建設業へと大きく傾いていました。そこで今回改めて現場見学会に参加しました。

今回2箇所の現場に行きました。1箇所目は大社町の宇迦橋の架け替え現場でした。この現場は古くなった宇迦橋を取り壊す工程までを行う現場です。橋の取り壊しは、まずカッターと呼ばれる機械でブロック状に切断します。さらに大きな切断箇所についてはワイヤーソーイング工法というワイヤーを高速で回転させコンクリートの塊を切断します。このように二つの切断方法をパーツごとに使い分け、橋の取り壊しを進めておられました。橋脚は水の中に埋まっているため、橋脚の周りに矢板を打ち、その中の水を抜き、橋脚もワイヤーソーイングを使って切断します。水の中に浸かっていた橋脚も全て撤去します。

2箇所目の現場は重要文化財の旧大社駅本屋の保存修理の現場です。重要文化財の工事は基本大きな機械などは使えません。ですから工事は手作業で進めていきます。このような工事では使える部分はそのまま使い、使えない部分は新しいものに取り換えます。基本は再利用でした。駅本屋の瓦は1枚1枚丁寧に洗われていました。またこのような工事では、修理途中に雨風を防ぐため建造物を囲うように大きなテントを張り、建造物を守ります。

今回見たような貴重な現場はめったに見られないので、とても勉強になりました。

斐伊川放水路の現場見学にも行きました。放水路は斐伊川が氾濫しそうになった時、一時的に放水路に水を流し神戸川へ移すための水路です。放水路は実際に使われた時に、川の水位がしっかり低下していたのがすごいと思いました。実際に放水路へ入って近くで見ると、迫力がすごかったです。その他斐伊川の砂が流れないように工夫もしてありました。

最後に建設機械の搭乗体験をしました。私は将来重機オペレーターになりたいと思っているので、この体験は私にとって貴重な時間になりました。まず40tのアーティキュレートダンプに乗りました。このダンプは公道を走ることのできない現場専用の重機です。次にバックホウに乗りました。この重機は主に土を掘り積み込みをする重機です。2本のレバーを使い作業をします。次にローラーに乗りました。この重機は主に道路工事での締め固めをします。

今回現場見学会に参加して、将来の進路がはっきり決まったと感じました。そして島根の土木を支える一人になり、地図に残るような大きな仕事をしたいと思っています。

しまね建設産業イメージアップ女子会



会 長
川 井 香 織

令和3年10月26日、毎年恒例になる島根県出雲地区建設業協会青年部会主催の出雲農林高校・出雲西高校の高校生を対象とした現場見学会に「しまね建設産業イメージアップ女子会」（以下「女子会」）も参加させて頂きました。私たち女子会もコロナ禍で中々思うように活動が出来ない中、貴重な機会を頂きましたことに感謝しております。

当日は重機搭乗体験の待ち時間で私たちの活動のPRや女子会メンバーの現場での経験談や「しまね建設産業イメージアップカレンダー」で建設業の様々な分野で働く女性の姿などを見て頂きながら生徒さんからの質問や建設業への素直な意見など聞かせて頂きました。生徒さんも普段、学校の先生やご両親以外の大人と話す機会、私たちもこれから建設業で働こうとする生徒さんと話す機会は中々無いのでとても貴重な時間でした。

今年は特に女子生徒さんも多く、結婚・出産しても建設業で働き続けられる事、育児休暇や産休などの制度を利用し女性が社会で働き続ける事の大切さなど様々な話も出来ました。

私たち女子会の活動も新型コロナウイルスの感染予防対策により、各種イベントが中止となる中、コロナ禍でも出来る事を発信していこうと、商業施設や道の駅などで建設業で働く女性のパネル展示などを開催しています。

多くの方々に、建設業の仕事や魅力、女子会の活動を広く知って貰えたら嬉しいです。

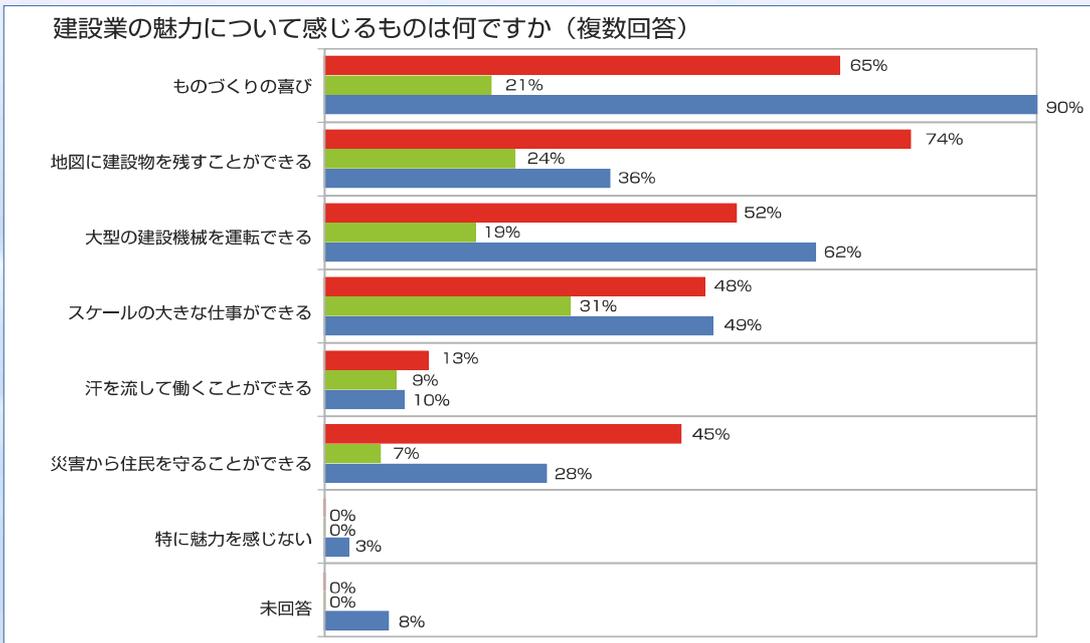
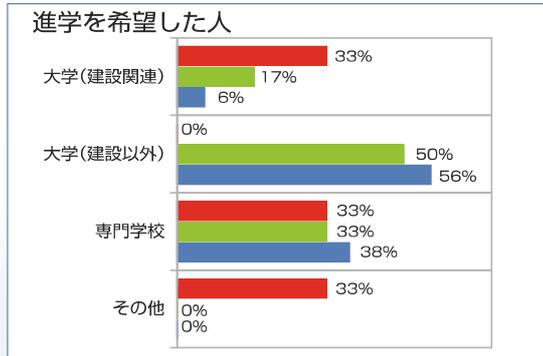
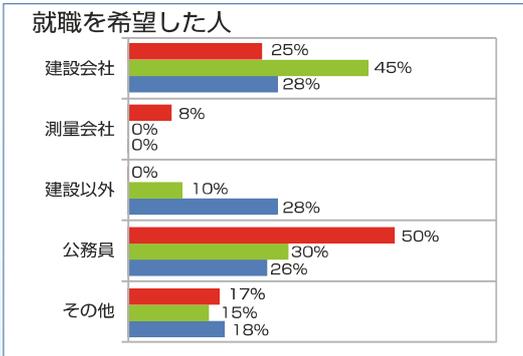
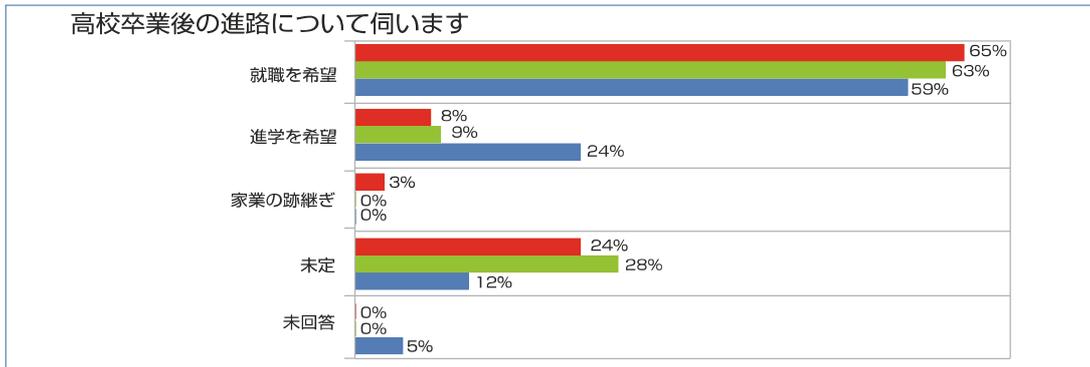
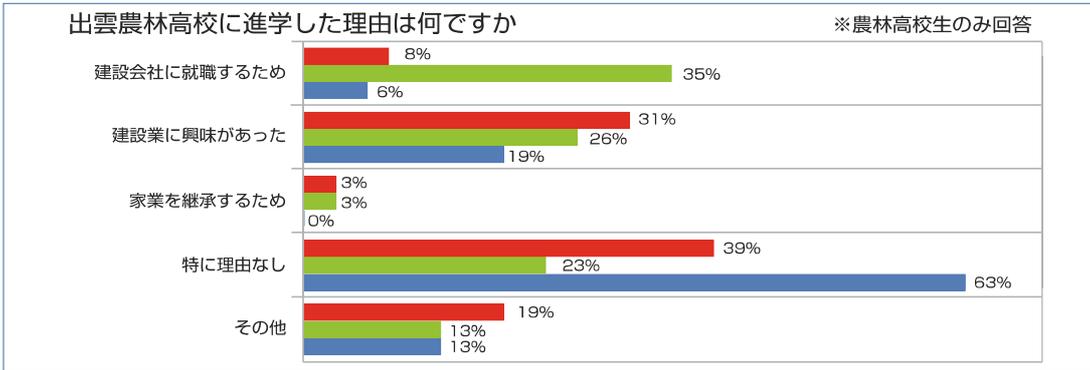
今後も建設業の魅力発信を続け、未来を担う高校生の皆さんの心に届くと嬉しいです。



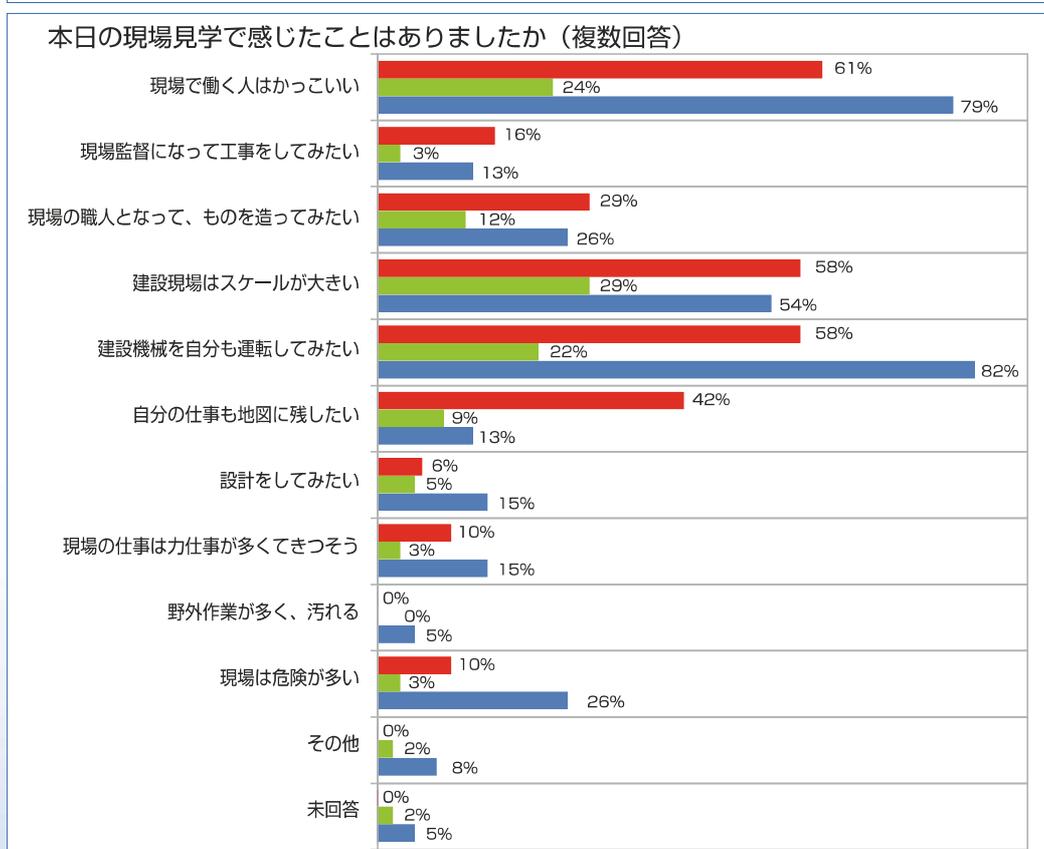
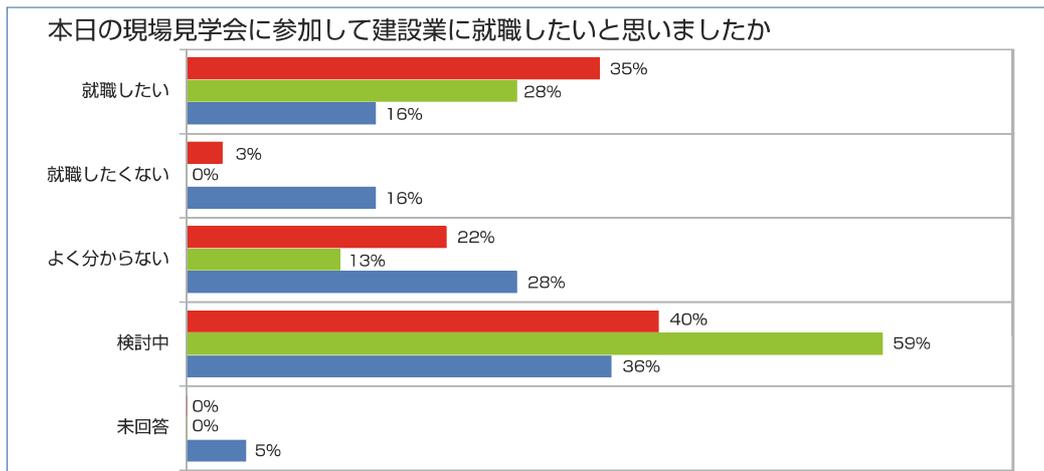
アンケート結果

実施日／対象者

- …令和3年10月26日／見学会参加生徒 40名(出雲農林高校39名、出雲西高校1名)
- …令和2年10月27日／見学会参加生徒 32名(出雲農林高校31名、出雲西高校1名)
- …令和元年10月30日／見学会参加生徒 58名(出雲農林高校32名、出雲北陵高校23名、出雲西高校3名)



■…令和3年度
■…令和2年度
■…令和元年度



アンケート結果(まとめ)

今回の事業では、40名の生徒の皆さん(出雲農林高校生39名、出雲西高校生1名)に参加していただきました。青年部会ではこの事業を通じて、建設業の魅力を伝え、関心をもってもらい、将来の進路選択に役立ててもらえるよう、工事現場の見学や重機の搭乗体験などを企画しております。

アンケートで高校卒業後の進路について何うと、就職希望者は65%と高いのですが、建設会社への就職希望者は25%と低い割合となりました。ただ今回の現場見学会を通じ建設業に就職したいと考えてくれた生徒が前回の28%から35%へと微増し、建設業の魅力、そしてやりがいを少しでも伝えることができたのではないかと感じております。

全国では都市部に若者が流出し、過疎化に歯止めがかからない地方も多くあります。地元建設業は地元にお住まいになる方々の安心・安全な生活を支え、近年多発する災害に対しても迅速に対応する責務があります。そのためには地元建設業にとって若い技術者や技能者の力が必要不可欠です。

我々青年部会では、多くの生徒の皆さんに建設業の魅力を発信できるこの活動を今後も継続してまいりたいと考えております。



次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じる事(考察)

経営研究委員会 委員長

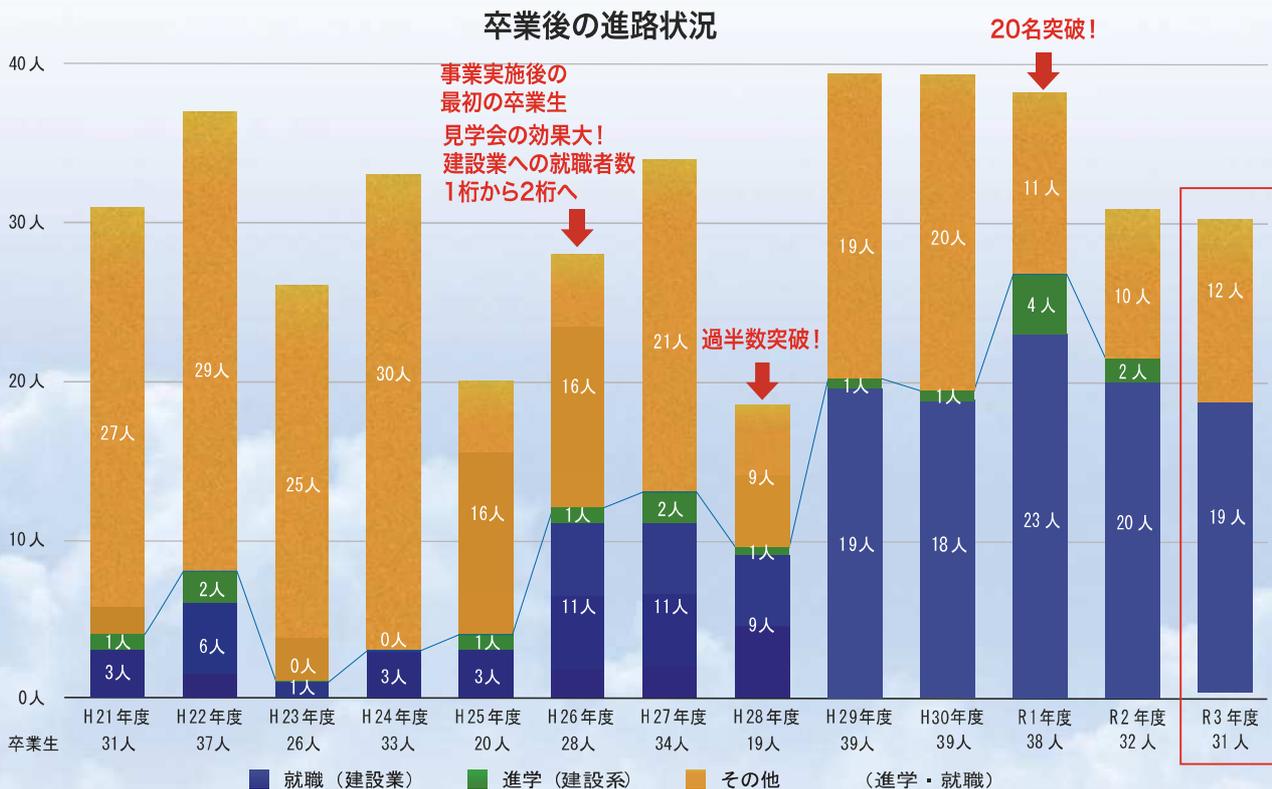
(有)ナギラ建工 柳 樂 則 昭

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)は、平成25年度の実施から今回で9回目となりました。このコロナ禍での状況で本事業が開催されるかと懸念されましたが無事開催でき多くの生徒の皆様に参加して頂きました。

高校卒業後の進路の状況について本事業の開催前と開催後の就職先について調査を行いました。アンケート結果からわかりますが、多くの生徒に興味や関心を持っていただいていることがわかります。それはTVや通学中に見かけるだけだった、道路・橋工事や建設機械等を本事業で実際に体験してもらうことにより見るだけではわからない「楽しさ・喜び・やりがい」を生徒の皆様にも肌で感じてもらうことで、建設業の魅力を持っていただけた成果だと思います。

今日、建設業界も労働者の高齢化が進み若手技術者・技能者の不足は深刻な問題となっております。近年地震や豪雨等で災害が発生しています。災害が発生した時、復興を支えるのは地元の建設業です。それに伴い人材不足は地域の方々にとっても深刻な問題だと思います。

今後も本事業を継続して行い、少しでも多くの若者が建設業界に興味・関心を持っていただける活動を行い、一人でも多くの若手入職者が増えるよう建設業の役割・魅力を発信していきたいと考えています。



島根県立出雲農林高校環境科学科 進路決定状況より



出雲農林高校(環境科学科) 中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 委員

(株)トガノ建設 嘉藤 雅士

令和3年8月4日(水)に次世代建設就業者育成事業の一環として、出雲市内外の中学生を対象とした島根県立出雲農林高等学校主催の一日体験入学支援事業に参加しました。

本事業は体験入学への支援を行うことで、多くの生徒に建設業の魅力を伝えるのと同時に、出雲農林高等学校の環境科学科へのPRも同時に行うことで、建設業における若手就職希望者の確保や促進を目的として平成28年より実施しております。

当日は天候にも恵まれ、午前の部と午後の部に分かれて約60名の中学生が参加し、バックホウの搭乗体験を中心に、建設現場の作業風景のパネル見学や環境科学科の生徒たちの活動内容を収めた動画の視聴をしていただきました。

バックホウの搭乗体験においては、操縦したことのない機械に乗ることに生徒たちは緊張した面持ちでいましたが、普段から現場で使用している青年部会員が優しく説明をすると、真剣な表情になり、最後には楽しそうな笑顔になったことが印象的でした。参加した青年部会員は単に操作方法を教えるだけでなく、活用場面の説明まで行っており、それが建設業のやりがいを感じることに繋がっていくことに期待したいと思えました。

本事業についてはあくまで出雲農林高等学校の一日体験入学への支援という形での事業であるため、建設業協会青年部会としての独自色を出せないところに課題やジレンマがあるように感じました。当青年部会としては出雲農林高等学校を中心とした現場見学会並びに意見交換会も開催しております。高校との連携をさらに強化していき、新たなスタイルでの支援を検討していくことが、本事業のさらなるステップアップにつながると確信しております。

社会の情勢などにより建設業界も変革を求められている時代になりました。その中でも今後の建設業の未来を担っていく人材の確保は急務だと思われます。そのような状況において、建設業協会青年部会として建設業の魅力の発信などを行っていくことこそが求められた責務であると感じられる事業となりました。



地域貢献事業報告



第22回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 ～2021道路清掃～

地域貢献委員会 委員

(株)佐藤組 佐藤 精一

今年度の地域貢献事業として、令和3年7月30日に下図場所の歩道のごみ拾いを、出雲県土整備事務所の職員様、JRの職員様、オーケーリース(株)様、(株)原商様、(株)リョーキ様、会員、事務局の総勢59名の方々にて実施致しました。

当日は出雲建設会館にて出陣式を執り行い、部会長挨拶の後、がんばろうコールで一致団結し清掃活動を開始しました。猛暑の中での作業の上、新型コロナの感染者数が増加している事もあり、マスクを着用しての実施だったため例年以上の暑さを感じました。

回収したごみは様々なものがありましたが、コロナの影響から、特に目立ったものはお酒の空き缶やマスクが多く見受けられました。この場所でのごみ拾いは3回目となりますが、その回収量は前回の50kgから今回は60kgと増加しておりました。

事業を通して参加者はもとより、多くの方々に清掃活動を認知頂くことにより、美化に対する意識の向上を図り、行動に変化を起こすことができれば、ごみの量が減っていくと思われれます。この事業の成果はごみ拾いの必要がなくなった時であると思いますので、それに向けて今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、この事業にご協力頂きました参加者の皆様まことにありがとうございました。



(実施範囲：赤線部分)

地域貢献事業報告



島根県豪雨災害 ボランティア活動に参加して

青年部会 副部長

大福工業(株) 勝 部 和 則

令和3年7月に起きた記録的大雨により、河川が氾濫し護岸は崩壊、道路は冠水し陥没、各地で土砂が崩壊するなど、沢山の被害をもたらしました。

そこで立ち上がった『出雲市災害ボランティアセンター』への活動に、我々青年部会も7月22日(9名)・8月7日(10名)の2日間、参加させていただきました。作業内容は、裏山から民家へ流れ込んだ土砂を撤去する作業でしたが、用意されていたのはスコップとツルハシと猫車…、おまけに両日とも猛暑日、大変な作業になると覚悟しました。

しかし、建設従事者だからなのでしょう…途中交代しながら身体への負担を軽減させ、熱中症対策においては適宜に休憩・水分補給を行い、作業方法を随時話し合いながら効率良く作業が進んで行きました。

作業を進めて行く中、ボランティアセンターや住民の方々から予想以上の成果に大変驚かれ『皆さん本当にありがとうございます』という感謝の言葉にやりがいを感じたと同時に、今後の災害対応をどのように向き合っていくか、建設業者として考えさせられる日になりました。

この活動を通じ、ボランティアセンターへは我々以外にも沢山の皆さんが参加され、また近所の住民や建設業者(ダンプ運搬等)と一緒に汗をかいてくださった事に深く感銘を受けました。そんな中、今回我々建設業協会青年部会が参加した事で、この業界でも輪が広がって行き、災害に対して出雲が安心・安全で暮らせる街になることを願っています。

最後になりましたが参加された皆様、大変お疲れ様でした。



会員交流事業報告



研修会2021

会員交流委員会 副委員長

ヒロシ(株) 落合和典

令和3年11月18日に青年部会員交流委員会が担当する「研修会2021」を開催いたしました。

研修会では、出雲県土整備事務所より企画調整スタッフ企画幹 田中崇様、東部県民センター出雲事務所より建築課長 西脇泰子様をお迎えしご講演いただきました。

田中企画幹には「総合評価技術資料の提出における注意事項」をテーマとして入札時における提出資料の注意点・R3年度主要改正点等、入札時において参考となる話をして頂きました。質疑させていただいた内容にも明確な回答をいただき、今後の入札業務に有用な情報を頂く事ができました。

西脇建築課長には「建築工事等における県の取組と出雲地区の近況」をテーマに、入札時積算数量書活用方式、及び出雲地区の今後の整備状況や建築工事事故発生状況などを説明して頂きました。入札時積算数量書活用方式に関しては受注者側でまだ利用率が低い事や、着手前に協議する必要がある点など、こちらも今後の業務に関し有用な情報を頂く事ができました。

講演後に意見交換会を行う予定ではありましたが、新型コロナウイルスの影響により残念ながら中止となりました。本来であれば普段お聞きできないお話を伺えるなど、大変貴重な意見交換の場であり、開催できなかった事が悔やまれてなりません。

ご講演頂いた田中企画幹、西脇建築課長に心より感謝を申し上げますと共に、今回の研修会で得た情報を今後の業務に活かしていきたいと思っております。



卒業にあたり



大福工業(株) 勝部 和 則

平成14年に入会させていただいてから20年間の歳月が過ぎ、いよいよ卒業の時を迎えることとなりました。本当にあつという間の20年間だったと感じています。

振り返ってみますと、入会当初は何も分からないまま総会に出席しましたが、先輩方や同期の方と沢山の新しい『出会い』があり、社会人・業界人として日々成長させていただく貴重な時間を過ごすことが出来ました。

事業に関しては、担い手問題・建設業魅力発進では高校生・中学生とふれあい、クリーンアップ作戦や災害ボランティアでは皆様と共に汗をかき、その他数えきれない程の『経験』をさせて頂きました。

近年では、委員長・運営専務・副部長の大役を受け未熟な私ではありましたが、会員の皆様の支えもあり、一緒になって『絆』を深めていくことも出来ました。

これらの『出会い』と『経験』と『絆』は、私にとって貴重な財産となったことに、とても感謝しております。

最後になりましたが、長い間大変お世話になりました。今後も新部長のもと、益々のご発展と会員の方々のご活躍をお祈り申し上げます。卒業の御礼とさせていただきます。

本当にありがとうございました。



(株)フクダ 務 中 直 也

令和2年度の青年部会入会より約2年間が経過し、この度卒業を迎えることとなりました。

この2年間は主に会員交流委員会に所属し、発注者との意見交換会や会員同士の交流会の運営に微力ながら携わって参りました。例年であればもっと多くの行事を開催できたところですが、感染症の蔓延に阻まれ思うような活動ができない日々が続きました。

そんな数少ない交流の場ではありましたが、それを通じて様々な方と出会い、関わり、親睦を深めることができたことは私の人生においても大変貴重な体験となりました。競争しているライバル企業も、会社という垣根を取り払えば一人の人間であり、業界を支える仲間でもあります。皆が納得できる業界にするため、各社の熱い思いを持つその人達が改め仲間になれる集まりが青年部会でした。

今後はこの経験と繋がりを活かし、建設業界の更なる発展と地域社会の安定に寄与できるよう邁進してまいります。

最後になりましたが、業界に入ったばかりの若輩であった私にはいつも世話を焼いてくださる先輩方がいらっしゃいました。2年間という短い間ではありましたが、会員並びに事務局の皆様には大変お世話になりました。公私ともども今後ともよろしく申し上げます。本当にありがとうございました。



新入会員紹介



中国道路整備(株) 安部 希 芳

今年度から出雲地区建設業協会青年部会に入会し、地域貢献委員会で活動をさせていただいております、中国道路整備株式会社の安部希芳と申します。

県外の大学を卒業後、生まれ育った地元に貢献したいという強い思いから地元へ戻り、幼少期からの夢であった建設業に入職し、十数年が経とうとしています。その大半を営業職として過ごしてきましたが、いまだに自分の知識不足、技術不足をひしひしと感じています。この度ご縁があり青年部会に入会させていただくことになりましたので、今後諸先輩方とともに青年部会の活動に積極的に参加し、少しでも多くのことを学んでいきたいと思えます。

建設業界では担い手や後継者不足、そして熟練者の高年齢化、働き方改革などの問題がたびたび話題にのぼりますが、土木の日記念イベントや現場見学会などの活動を通じて建設業の魅力を発信し、少しでも多くの方が建設業に興味をもってもらえるよう尽力していきたいと思えます。

今後さまざまな青年部会の活動を通じて多くの方と交流し、建設業の魅力を発信していけるよう努力してまいりたいと思えます。若輩者ではございますが、尽力いたしますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 歴代部会長

初代部会長	山本恭則	平成9年度
第2代部会長	今岡裕統	平成10～13年度
第3代部会長	別所幸雄	平成14～15年度
第4代部会長	広戸 修	平成16～17年度
第5代部会長	久文秀典	平成18～19年度
第6代部会長	山崎章弘	平成20～21年度
第7代部会長	山口 弥	平成22～23年度
第8代部会長	梶野直宏	平成24～27年度
第9代部会長	山崎育男	平成28～29年度
第10代部会長	内藤正和	平成30～令和元年度

編集後記

この編集後記を書いている12月、新型コロナウイルス感染症が初めて中国で確認されて、3年になります。私達は3年間も日に見えない敵と戦い続けていたのですね。

しかし、決して悲観することばかりではありませんでした。

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」も開催され、日本選手の素晴らしい活躍、笑顔あり、涙ありの熱戦に感動の毎日でした。また、海の向こうでは投打でメジャー史上に残る活躍をみせ、球界の話題をさらった大谷翔平選手。アメリカン・リーグMVPを獲得した記録は、永遠に語り継がれるものとなり、新型コロナウイルス感染症さえ忘れさせてくれるようなひと時でした。

青年部の活動においても、開催の判断が難しい中、感染症対策を徹底し現場見学会、一日体験入学、研修会等も行うことができ、7月の豪雨災害に伴うボランティア活動、ふるさとまるごとクリーンアップ作戦など皆様に協力していただいた行事も滞りなく行うことができました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、2022年が新たな思いを「加える」年になりますように、皆様のご健康とご多幸をお祈りします。

総務広報委員会

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。